



# いよいよ着工!!

## 拓心館デイサービスセンター『エイブル』

社会福祉法人七峰会では、前回の広報で紹介した児童・障害者デイサービスセンター『ぐれよん』の隣に同時着工で知的障害者デイサービスセンターを建設しています。施設名は『エイブル』、通称「拓心館」が母体となります。

拓心館は、昭和53年の開設以来、知的にハンディキャップのある人を中心に一般企業に勤めている人の就労支援と地域生活をするための援助をしてきました。その一方で、就職するための基礎訓練と福祉就労を行う作業訓練施設『勇心学園』を運営してきました。その実績を基に新しいデイサービスセンターは、「創造型（軽作業を行う）」としました。

拓心館では、障がいのある人が仕事を通じて社会の一端を担うことは、最大の社会参加であると考へ、障がいの程度に関わらず「働く」ことを支援するシステムを整備していきたくと考えています。

8時間働ける人、6時間なら働ける人、1時間働ける人と、一人ひとりの働く力は違っていても、持っている力を精一杯発揮して「仕事をすること誇りを持つことができる」と信じています。デイサービスセンター『エイブル』を、働く形の一つとして利用していた

だくことを願っています。

具体的な事業は次のようになっています。

住所…弘前市若葉2丁目13番地1  
定員…15名

開所予定…平成16年12月  
活動内容

- ① 創作活動（軽作業）
- ② 社会適応訓練
- ③ 保護者への援助方法学習会
- ④ スポーツ・レクリエーション
- ⑤ 健康管理援助
- ⑥ 生活相談
- ⑦ 入浴サービス
- ⑧ 給食サービス
- ⑨ 送迎サービス

『エイブル』は、英語で「く」ができる・才能がある」という意味です。知的ハンディキャップがあっても、一人ひとりにある可能性を引き出して、多くの才能を発揮していただきたいと思います。

### 峰のひかり

発行人  
社会福祉法人七峰会 会 総  
理事長 奥田  
〒036-8356  
青森県弘前市大字下白銀町21-8  
電話 (0172) 33-8861  
FAX (0172) 33-8862





拓光園では、利用者の方々の作業活動の一環として、石鹸作りを取り入れていますが、今回はそれを紹介します。

拓光園リサイクル石鹸『みんなの石鹸』は、ご家庭で使用された食用油を再利用したもので、市販のものに比べて環境に優しいのが特徴です。

作り方は、まず、ご協力いただいている弘前市立病院や一般のご家庭から定期的に廃油を回収して来ます。その廃油を熱しながら苛性ソーダを混ぜて、化学反応を起こします。ソーダ灰を入れてかくはんし、冷めた物を丸め乾燥させ、削って使いやすい粉状にして容器に入れ出来上がりです。洗濯用洗



剤、食器洗いなどの住まいの洗剤として使うことができます。

石鹸班の利用者の方々は、廃油の回収に出かけたり、出来上がった石鹸を丸める作業、削って粉状にする作業、さらには、パッケージ作りなどで頑張っています。皆それぞれ得意な作業分野があり、その作業になると集中して取り組むことができます。

製品は、作品展やカルチャードで紹介したり、文化祭などの園の行事の際に販売しています。また、弘前市の消費生活展でもサンプルを提供し、非常に好評でした。

一般のお店に並べられるほどの大量生産はまだできていませんが、「品質はとも良い」と使われた方からお褒めの言葉もいただいています。興味のある方はぜひ当園にご連絡ください。



旭光園では、生活のアクセントの一つとして毎年旅行を行っています。今年も利用者の皆さんの意見を聴き「立俣武多の館見学・日帰り旅行」「函館―泊旅行」「沖縄二泊旅行」の3コースを企画しました。旅行の内容や自分の体力などに合わせ、個々人が参加コースを選びます。初めて観るものに感動したり、何度か訪れた所でも新しい発見があったりと、楽しい旅行ができたようです。特に沖縄の首里城では、城内に身障者用昇降機が設置してあり、車椅子の方は外から観るだけだと思っていたのが、世界遺産の中までじっくり見学することができ、感激していました。

「いや、出発―その前に…」

旅行に出掛ける際、障がいのある方が不安に思うことの一つとして、乗り物で長い時間移動するときのトイレの心配があります。

今回の旅行でも、青森―函館間は約2時間、列車に揺られました。身障者用座席やトイレのある車両はありますが、全員分の座席の確保はむずかしく、一般車両も利用しています。こちらは通路が狭いので、普段の車椅子では通れませんが、それには幅の狭い携帯用車椅子を持参することで対応しました。また、東京―沖縄間の飛行時間

も約2時間でしたが、あらかじめ水分を控えるなどの自衛策をとった方もいます。機内では客室乗務員が、車椅子の方のためにトイレ前の通路をカーテンで仕切りスペースを広げるといった配慮もしてくれました。

楽しい旅行のために

バリアフリー法などにより、新しい建物はもちろん、古いものでも車椅子やスロープ、身障者用トイレを設置している所が多くなりました。でも、目に見えないハードルもまだまだ多いのが現状です。そのため、旅をしたいと思う気持ちがあっても、不安や遠慮が先に立ちがちですが、それを理由に旅行を諦めることがないように、行動範囲が制限されることがないように、旭光園では情報提供や不都合を補う工夫に十分な配慮をしています。

その結果、ある利用者の方は「今はまだ一人旅に自信はないが、そのうち一人で」と話しており、さらなる夢を抱くチャンスとなっているようです。



平成16年9月1日号の『広報ひろさき』の一面に、在宅介護支援センターが取り上げられました。サンアップル在宅介護支援センターは、弘前市から運営を委託され、船沢中学校区を担当しております。

【在宅介護支援センターとは?】介護認定者のもとより、介護保険の対象とならない高齢者への生活支援や介護予防活動、さらには障がい者をはじめ援助を必要とする全ての人を視野に入れていきます。そして必要な保健・福祉・医療サービスがより利用しやすくなるように手助けする、いわば「福祉の総合的な窓口」といえます。

【在宅介護支援センターの仕事】

在宅介護支援センターの職員は民生委員と連携しながら、高齢者世帯を訪問し、日常生活に対するアドバイスや支援をしています。また、転倒骨折予防教室の開催や福祉サービスの紹介と手続きの



代行を行なっています。訪問する際は「弘前市委託証」を持参しています。

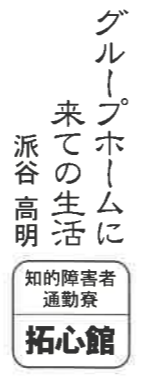
【サービス調整】

相談内容が介護保険サービスが必要とする場合は、ケアマネージャーへ連絡しますが、当センターの場合はケアマネージャーの資格者が担当していますので、そのまま相談にのる事が出来ます。介護保険サービスには、入所施設のほか在宅支援として、短期入所・グループホーム・通所介護・通所リハビリ・訪問介護・訪問看護・福祉用具貸与・住宅改修等々があります。

【相談ください】

例えば  
・おじいちゃん(おばあちゃん)が急に入院してしまつて...  
・介護に疲れてしまつた。  
・サービス・施設を利用する時の手続きがわからない。  
困ったときは、まず相談。在宅介護支援センターは、身近な相談窓口です。

▼問い合わせ先||サンアップル在宅介護支援センター  
(TEL 97-2131)



グループホームに 来ての生活 拓心館 派谷高明  
3月28日(日)の午前、僕は地元・五所川原をはなれ、小さい頃からの夢だった弘前での生活をスタートさせました。弘前市本町にあるグループホームに着くと、まず始めに荷物をおろし、自分の部屋に運びました。1年間お世話になる先輩たちや世話人の小山さんに会い、そこでみんなに自己紹介をしました。そして、その日は1日かけて荷物の整理をしたり、部屋の清掃をしました。いよいよ本格的なグループホームでの生活が始まつたわけですが、初めてのことがばかりで生活のしかたがよくわかりません。先輩たちに聞くのもかなりきんちようでしたが、少しずつ先輩や小山さんに聞きながら、わかるようになってきました。先輩の名前も少しずつおぼえ、最初に森先輩の名前をおぼえました。  
そして春休みが終わわり、4月13日からいよいよ職業訓練校も始まりました。3日ぐらいたると友だちもできました。そして僕は弘前で剣道の道場にも、かよい始めました。学校の方も最

初はわからなかつたけれども、少しずつおぼえてきました。そして6月15日からは免許を取るため自動車学校に入校しました。初めて車に乗った時は、きんちよううれしき、車の楽しさとこわさを体でおぼえることができました。また、マニュアルはともむずかしく、おぼえるまでたいへんでしたが回数をかさねるうちに、体がしぜんにおぼえてきました。そして7月ごろ仮免許を取ることができました。次の日から路上を運転しました。路上運転は運転よりも交通の流れにのるのがとてもむずかしかったです。そして9月3日、自動車学校を卒業しました。9月に、こうあんなにかいに2回テストをうけにいきました。90点で合格ですが7点たりず、83点で落ちましたががんばって合格できるようにしたいです。  
これからの目標は車の免許を取って、訓練校をぶじに修了して会社にしゅうよくして、たくしんかんを卒業してアパートで一人ぐらしをしながら、仕事や剣道などをがんばって自立したいです。それまで本町住宅でがんばります。そして、親にながいきしてもらいたいです。



# 児童ショートステイ利用が さらに充実!

身体障害者  
療護施設  
**山郷館**

児童対象のショートステイとは、制度上17歳までの児童を対象に、ご家族の都合によりお子さんの見守りや介護ができない場合に利用できます。宿泊による利用はもちろんのこと、日帰り(4〜8時間程度)の利用もできます。

現在、山郷館の児童短期入所事業では、7〜17歳までの児童が登録し、この制度を利用しています。山郷館児童短期入所事業の特徴として

- 学校から事業所、事業所から自宅までなど無料送迎の実施
- 入浴サービス、食事サービス(食材費実費)の実施

が挙げられます。これらのサービスは他の事業所ではセットで実施しているところは無く、好評を得ています。特に送迎サービスが行われることにより、「安心して仕事をすることができると喜びご家族もいます。」

今年12月には、山郷館3か所目のデイサービスセンター『くれよん』がオープンします。これによ

って、児童デイサービスとショートステイの2つのサービスが利用出来ることとなります。

利用される方の地域、曜日、目的等により、これまで以上にサービスの選択肢が広がり、益々利用しやすくなります。

利用にあたってのご相談やお申し込みはいつでも受付しております。お気軽にお問い合わせください。

TEL 97-2211 山郷館

sangokan@mt.biglobe.ne.jp



## 就労支援者、 弘前に集う!

### 平成16年8月5日、『シテイ弘前 ホテル』で「第3回障害者就業・ 生活支援センター北海道・東北ブ ロック連絡会」が行われました。

参加者はブロックの15のセンターのうち、12か所から21名と、少数ながら活発な会議となりました。

このようなブロックごとの開催は全国でも珍しく、平成13年に山形県で行われて以来3回目となります。今回は拓心館グループの事業の一つである『津軽障害者就業・生活支援センター』が当番施設として実施しました。

基調報告では、前大阪市障害者就業・生活支援センター所長の小林茂夫氏が『地域の支援力をどう高めるか』と題して講演されました。その中で「これからの障害者就業・生活支援センターの役割は、障がいのある方の想いを実現することです。施設の中に、地域は存在しないのだから、より一層社会資源を有効に活用し、地域のネットワークの中核を担ってほしい。行政や地域を変えて行く使命感や思想性を持つことが大切だ」と述べられ、参加者一同、気持ちを新たにしました次第でした。

### 居宅介護 支援事業

山郷館居宅介護支援センター  
TEL 97-2941  
サンアップル居宅介護支援センター  
TEL 97-2131

### 特別養護老人ホーム

サンアップルホーム TEL 97-2111  
サンアップル短期入所生活介護センター  
サンアップルホームデイサービスセンター  
サンアップルヘルパーセンター  
グループホームアップル  
(痴呆対応型共同生活介護)  
弘前市委託事業  
サンアップル在宅介護支援センター  
TEL 97-2131

### 身体障害者援護

山郷館 TEL 97-2211  
身体障害者(児)短期入所事業  
山郷館デイサービスセンター  
山郷館デイサービスセンター弘前  
山郷館訪問介護センター  
山郷館訪問介護センター黒石  
旭園 TEL 57-5155  
通所相互利用事業  
旭光園身体障害者短期入所事業  
身体障害者福祉ホーム さわら

### 知的障害者援護

拓心館 TEL 82-4520  
地域生活援助事業  
生活自立訓練事業  
地域生活支援センター  
勇心学園  
光園 TEL 96-2331  
通所利用事業  
自活訓練事業  
拓光園デイサービスセンター  
拓光園短期入所支援センター  
拓光園障害児短期入所支援センター

### 総合支援

弘前市委託事業  
身体障害者相談支援事業  
弘前市障害者生活支援センター  
TEL 31-2400  
青森県指定  
津軽障害者就業・生活支援センター  
TEL 82-4520